

岡山大学における ESD導入への取り組み

2008年12月13日(土)
HESDフォーラム

岡山大学大学院環境学研究所
阿部 宏史

岡山大学におけるESD取組の特徴

- ①環境大学院を中心とする取組 (PPT1, 2)
- ②全学組織の設置 (PPT3)
 - ・岡山大学ユネスコチェア (2007年4月)
- ③ESD推進拠点(RCE岡山)との連携 (PPT4, 5, 6, 7)
 - ・岡山ESD推進協議会(RCE)
 - ・京山地区ESD推進協議会(地区ESD)
 - ・岡山県国際団体協議会(NGO)
- ④ESD導入による大学院教育改革 (PPT8, 9)
 - ・共通科目(概論、特論)でのESD解説
 - ・ESD特別講義、学外実習の単位認定
- ⑤大学院GP(2008~2011年度)への採択 (PPT9, 10)
 - ・循環型社会形成学+持続発展教育(ESD)
 - ・海外大学との連携(Pro. SPER Net、中国、ベトナム)

今後の課題

- ①大学院教育改革との関連
 - ・「研究中心→教育+研究」の意識改革
 - ・横断的取組の拡大
→「ESD研究フォーラム」の立ち上げ
- ②教養教育、学部専門教育との連携
 - ・新入生(全学)へのパンフレットの配布
 - ・教養科目シラバスへのESD関連科目目記
- ③学校教育との連携
 - ・高等学校との連携(大学院生によるESD講座)
 - ・小中学校との連携(教育学研究科との連携)

1. 岡山大学の概要と環境学関連の学部・大学院

<岡山大学の概要>

>経緯：岡山医科大学創立(1922年)
岡山大学創立(1947年)

>現況(2008年度)

- ・11学部 7研究科
- ・教員数 1,304名
- ・学生数 14,035名(学部・大学院合計)



岡山大学正門付近

<環境関連の部局>

>環境理工学部(1994年10月設置)

- ・環境数理学科(数学系, 学生定員20名)
- ・環境デザイン工学科(土木・衛生, 50名)
- ・環境管理工学科(農業基盤, 40名)
- ・環境物質工学科(化学工学, 40名)

>大学院環境学研究所(2005年4月設置)

- 専任教員72名, 博士前期106名, 後期22名
- ・社会基盤環境学専攻(環境理工学部)
- ・生命環境学専攻(農学部・医学部・歯学部)
- ・資源循環学専攻(環境理工学部)



岡山大学津島キャンパス

2. 環境学研究所における教育研究事業の展開

①21世紀COEプログラム(2003年度~2007年度)

「循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント」
→廃棄物分野における国際的研究教育拠点形成, 若手研究者の育成



大学院環境学研究所設置(2005年4月)

「アジアにおける環境学の拠点形成」
・文理医融合による環境学の再構築
・国際的に活躍する環境専門家の育成

②魅力ある大学院教育イニシアティブ(2005年度~2006年度)

「『いのち』をまもる環境学教育」
→国際機関で活躍する環境専門家の育成



岡山大学ユネスコチェア認可(2007年4月)

③文部科学省特別教育研究経費(連携融合事業)(2007年度~2009年度)

「地域発信型による国際環境専門家の育成プログラム」
→ユネスコチェアを活用したESDの国際拠点形成プログラム
→RCE岡山との連携によるESD推進と国際環境専門家の育成

④文部科学省大学院教育改革支援プログラム(2008年度~2010年度)

「アジア環境再生の人材養成プログラム」
→循環型社会形成学と持続発展教育(ESD)の融合
→アジア環境再生特別コースの設置

3. 岡山大学ユネスコチェア：目標と主要事業

UNITWIN/UNESCO Chair プログラム

1992年の第26回ユネスコ総会で採択された事業であり、高等教育機関における教育・研究を大学間ネットワークの中で推進し、国境を越えた知識の交換の促進を目的とする。2007年10月末時点で、125カ国766機関において630のUNESCO Chairと67のUNITWINネットワークが設立されている。

分野：Education, Natural Sciences, Social & Human Sciences, Culture, Communication & Information, Special Focus (Environment, HIV/AIDS, Human Rights, Lifelong Education, Gender and Women Issues, Youth)

<岡山大学ユネスコチェアの目標>

国連持続可能な開発のための教育の10年プログラムを受け、持続可能な社会を創造するスキルを備えた人材を育成することを目標とする。

- ①国連機関等の国際機関で活躍できる国際環境専門家の育成
- ②地域で持続可能な社会の実現を推進するための専門家の育成
- ③持続可能な社会構築に貢献する環境教育カリキュラム作成
- ④大学間ネットワークを通じた開発途上国の環境専門家への知識・技術の移転

岡山大学ユネスコチェアHP：<http://www.esd-okayama-u-jp/index.html>



海外フィールド実習



NGOサミット2006「ESD国際会議」

4. RCE岡山：地域におけるESD関連活動

岡山大学

- ▶ 岡山市環境パートナーシップ事業
 - ・ 2001年4月開始 (岡山市環境保全課)
 - ・ 2007年3月までに、841団体 (32, 076名) が参加
- ▶ 公民館を拠点にした環境活動
 - ・ 京山ESD推進協議会環境プロジェクト
 - ・ 高島旭竜地区エコミュージアム、など
- ▶ NGO、自治体による国際交流・貢献活動
 - ・ 国際貢献トピア岡山構想を推進する会 (OTIC)
 - ・ 岡山県国際団体協議会 (COINN)
 - ・ アジア医師連絡協議会 (AMDA)
 - ・ 岡山県国際貢献条例 (2004年制定)

環境点検 (京山地区)

公民館での環境集会 (京山地区)

岡山ESDプロジェクト (2005年4月開始)
RCE岡山 (2005年6月認定, 世界初7ヵ所の1つ)

5. 公民館を拠点とするESD活動：岡山市京山地区

岡山大学

岡山市京山地区ESD推進協議会 (2006年7月8日設立)
京山地区ESD環境プロジェクト (岡山KEEP)
代表：池田満之

環境省「国連ESDの10年促進事業」2007年度採択
「公民館を拠点とした学社連携・地域協働によるESDの継続的促進のための仕組みづくり」

http://www.env.go.jp/policy/edu/esd/activity/okayama/

6. NGOの活動：おokayama国際貢献NGOサミット

岡山大学

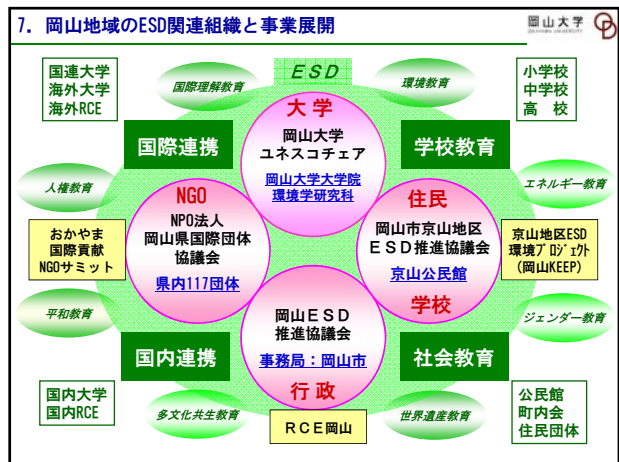
国際貢献トピア岡山構想を推進する会 (略称「トピアの会」、OTIC)

医療、教育、宗教などのヒューマニズムを尊重する岡山の人々の精神文化を活動理念として、NGO団体、とりわけ開発途上国のローカルNGOを支援することによって、国際的な視点から地域の活性化と発展を図ることを目的とし、1994年に設立された。1994年から毎年、「おokayama国際貢献NGOサミット」を開催している。

1996 Religion
1997 Environment
1998 Social welfare
1999 Respect for Human
2000 Education for Sustainable Future
2001 Children's Summit
2002 To Live as a Global Citizen
2003 Decade for Education for Sustainable Development (DESD)
2004 Education for Sustainable Development
2005 Cooperation between Formal and Non-formal Education
2006 Cooperation between NGO's and Universities towards Realizing a Sustainable Society
2007 Kominkan Summit in Okayama
2008 NGO and Kominkan/CLC Summit 2008
-Community Development and Promoting ESD
-Community, Food and Education for Sustainable Development-

岡山大学が共催

関連HP：トピアの会 <http://www.otic.jp/Goisatu.html>, 岡山県国際団体協議会 <http://coinn.org/>



8. 岡山大学ユネスコチェアによるESD実践事業

岡山大学

ヨハネスブルグサミット (2002年)
ESD : Education for Sustainable Development
第57回国連総会 (2002年)
ESDの10年 (DESD : 2005年~2015年) 採択

「魅力ある大学院教育」への対応 (平成17年度~18年度)
『いのち』をまもる環境学教育
・ 国際機関インターンシップ
・ 海外フィールド演習
・ 大学院教育実質化、等

岡山大学ユネスコチェア
「持続可能な開発のための教育と研究」
(平成19年4月設置認可)

The UNITWIN/UNESCO CHAIR
in Research and Education
for Sustainable Development
at Okayama University

①国際貢献への組織的・戦略的取り組み
②大学教育の改革

ESD実践

ESD国際会議
ESD特別講義
国際ESD実践事業
地域ESD実践事業
ESD教材開発、等

＜養成すべき能力＞ 学習能力
・ 体系的な思考力
・ 持続可能な発展に関する価値観
・ 代替案の思考力 (批判力)
・ 情報収集・分析能力
・ コミュニケーション能力

9. 大学院教育におけるESD導入 (2008年度~)

岡山大学

The UNITWIN/UNESCO CHAIR PROGRAMME

＜岡山大学ユネスコチェア＞

- ① 客員教授の招聘
- ② ESD実務家の招聘
- ③ ユネスコ専門家の招聘
- ④ 国際シンポジウムの実施
- ⑤ ICTの整備と活用
- ⑥ 地域と連携した生涯教育・学習

＜大学院講義へのESD導入＞

- (1) ESD特別講義の開講
ESD特論Ⅰ (流域と水環境の持続可能性)
ESD特論Ⅱ (砂漠地の持続可能な開発)
ESD特論Ⅲ (持続可能な森林生態環境)
- (2) 概論科目 (必修)
・ 各専攻概論 (博士前期)
・ 各専攻特論 (博士後期)
第1回~第3回 (ESD関連講義)
- (3) 環境学学外実習 (2単位)
ESD実習, インターンシップ (国連大学, 公民館, 小中学校など)

